

資料編

Data

- | | | |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | パブリックコメント実施結果 | 107 |
| 2 | 水道事業ガイドライン業務指標
算出数値一覧 | 109 |
| 3 | 山口県内の水道料金比較 | 119 |

1 パブリックコメント実施結果

意見概要

光市民のライフラインである伏流水を良質で永続的に取水できる事業を最優先に展開してほしい。

また、島田川の表流水を取水することは放棄する方向のようですが、将来に不安があるのであれば、水道水安定取水事業基金(仮称)を設けて、次世代のために積み立てをする必要があるのではないか。

伏流水について、最新の成分分析技術を導入して、源流を調査してはどうか。

良質の水道水を確保する点から、中山川ダム貯水の定期的な水質検査する必要があるのではないか。

島田川の河床に堆積している汚泥の重金属成分の分析とその推移を継続的に監視すべきではないか。

光市水道水を愛する市民団体・自治会のネットワークを結成して、水源涵養林の育成事業や美味しい光市水道を飲む啓発活動などを水道局と協働で取り組むべき。

光市水道局の考え方

本計画では、市民のみなさまへ50年、100年先でも安定的に伏流水を水源とする水道水を供給するため、「水源涵養林の取得」を大きな柱として掲げています。

そのための財政措置としては、さらなる経費節減に努め、現在の料金体系を見直し、適正な公共的必要余剰額(資本報酬費)を計上したいと考えています。

公共的必要余剰額の用途は、借入金の償還財源に充てる減債積立金のほか、水源対策積立金(仮称)を毎事業年度10,000千円程度積み立てるものとします。

光市の水道水、伏流水原水、島田川表流水の水質は、周南都市水道水質検査センターで、「水質基準項目」51項目、水質管理目標設定項目25項目、「農薬類」102項目(表流水のみ)、及びクリプトスポリジウムの検査を実施しています。

現在のところ、これらの検査は、光市内のみの検査に留まっていますが、本計画では、源流を含んだ島田川上流域での採水箇所を決定し、定期的な水質検査を行い公表します。

光市水道局では、中山川ダム貯留権を渇水時の代替水源として位置づけています。中山川ダムの貯水の水質検査は毎事業年度実施しており、現在のところ水質基準項目は全てクリアしています。

現在、島田川河床に堆積している汚泥の重金属成分の分析は行っていませんが、水質検査項目に含まれる重金属成分の数値が基準を大きく下回っているというこれまでの水質検査結果から、島田川河床の汚泥についても重金属類による汚染の心配は少ないと考えています。

今後も定期的な水質検査結果を注視し、必要に応じて島田川河床の汚泥の分析についても検討していきます。

水源涵養林の取得については、取得地の選定、維持管理体制確立等を行う、有識者、関係団体を含んだ水源対策審議会を立上げます。

取得後の維持管理については、本審議会で検討される内容ですが、ご提言いただいた、市民団体・自治会のネットワークによる協働での活動も視野に入れ、審議会でも検討していきます。

意見概要

「個々の能力の向上、水道事業の専門的知識の蓄積、技術の継承など人材育成」について、市内の企業と連携を更に強化して、維持管理や分析などを共同事業化してはどうか。

「マッピングシステムの導入」について、導水管・送水管・配水管の素材別マップを作成する必要がありますが、埋設管の管理という観点から、下水・ガス・電線ケーブルなど埋設管事業者と一体になった埋設管マップを作成し、ライフラインの管理と道路工事の一元管理で、工事費用の効率向上と経費節減を図ってほしい。

災害緊急用に備蓄しているペットボトル飲料水の賞味期限内の消費（ペットボトルの再利用＝ごみ減量化、飲料水の用途など）について検討してほしい。

「貯水槽水道設置者に対して適切な管理方法などの指導・助言を行うことが可能」について、太陽熱温水器を設置している一般家庭も指導の対象か。（数日間外出した時の温水器内の塩素滅菌の持続効果が不安である。）

クリプトスポリジウムに対する対策や低塩素殺菌による美味しい水の供給のための紫外線（UV）殺菌などの滅菌の多様化について、先行した検討は是非すべき。テストプラントを造り、有料飲料水として、市販してはどうか。

光市水道局の考え方

現在、水道管の日常の維持管理については職員が行い、漏水などによる修理については市内の修理業者が行っています。また、市内各所の定期的な水質検査については周南・下松・光の3市が共同で設立した周南都市水道水質検査センターが行っています。今後もより効率的な事業運営を行えるように他との連携についても検討していきます。

電気、水道、ガス事業などそれぞれ異なる事業者が行っているため、これらの事業者が一体となり埋設管を管理していくことは現状では困難です。しかし、埋設工事による事故を未然に防ぐため、工事を施工する際の事前協議など、必要に応じて各事業者が協力体制をとっています。また、下水道事業については水道局と同じ行政が行っていることから、下水道工事に併せて水道工事を行うこともあり、経費節減に努めているところです。今後も工事費用の節減や埋設管の安全管理に努めます。

現在、光市水道事業では、年間で500mLのペットボトル水を5,000本作成しています。この主な用途としては、災害時及び緊急用備蓄飲料水ですが、そのほかに、光市水道水のPRとしても活用しています。しかし、ペットボトル水の賞味期限は2年と短く、備蓄用としては馴染まない点もあります。今後は、賞味期限の長期化と環境への配慮の2点を考慮し、水缶についても検討していきたいと思います。

貯水槽水道とは水道管から供給された水をいったん受水槽に貯め給水する方式の総称で、浄水器や温水器などはこれに該当しないため、指導の対象とはなりません。しかし、お客さまに蛇口の水を安心して飲んでいただくため、広報やホームページを活用して日常の管理方法などを情報発信していきます。

クリプトスポリジウム対策としては、紫外線（UV）照射、ろ過設備（急速ろ過、緩速ろ過、膜ろ過等）などの選択肢がありますが、伏流水を水源とする光市では、クリプトスポリジウムの発生する可能性が低いことから、導入コストの低い、紫外線（UV）照射施設の構築を行います。また、有料飲料水として販売することについては、現在のところ考えていません。

光市水道事業
のあゆみ市民アンケート
の実施光市水道事業の
目指すべき方向性ビジョンの
全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料
編

2 水道事業ガイドライン業務指標算出数値一覧

◆『安心』に関する指標

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1001	水源利用率	%	$(\text{一日平均配水量} / \text{確保している水源水量}) \times 100$	62.9	60.7	60.8
1002	水源余裕率	%	$[(\text{確保している水源水量} / \text{一日最大配水量}) - 1] \times 100$	26.4	29.3	40.7
1003	原水有効利用率	%	$(\text{年間有効水量} / \text{年間取水量}) \times 100$	85.3	85.3	85.5
1004	自己保有水源率	%	$(\text{自己保有水源量} / \text{全水源水量}) \times 100$	100.0	100.0	100.0
1005	取水量1m ³ 当たり 水源保全投資額	円/m ³	水源保全に投資した費用 / その流域からの取水量	0.00	0.00	0.00
1101	原水水質監視度	項目	原水水質監視項目数	23	23	23
1102	水質検査箇所密度	箇所/ 100 km ²	$(\text{水質検査採水箇所数} / \text{給水区域面積}) \times 100$	24.9	24.9	24.9
1103	連続自動水質監視度	台/ (1000m ³ /日)	$(\text{連続自動水質監視装置設置数} / \text{一日平均配水量}) \times 1000$	0.000	0.000	0.000
1104	水質基準不適合率	%	$(\text{水質基準不適合回数} / \text{全検査回数}) \times 100$	0.0	0.0	0.0
1105	カビ臭から見た おいしい水達成率	%	$[(1 - \text{ジェオスミン最大濃度} / \text{水質基準値}) + (1 - 2 - \text{メチルイソボルネオール最大濃度} / \text{水質基準値})] / 2 \times 100$	100	100	100
1106	塩素臭から見た おいしい水達成率	%	$[(1 - (\text{年間残留塩素最大濃度} - \text{残留塩素水質管理目標値}) / \text{残留塩素水質管理目標値})] \times 100$	75	75	75
1107	総トリハロメタン濃度 水質基準比	%	$(\text{総トリハロメタン最大濃度} / \text{総トリハロメタン濃度水質基準値}) \times 100$	17	21	16
1108	有機物(TOC)濃度 水質基準比	%	$(\text{有機物最大濃度} / \text{有機物水質基準値}) \times 100$	—	14	12
1109	農薬濃度 水質管理目標比	%	$(\text{測定を実施した農薬毎の最大濃度をそれぞれの水質管理目標値で除した値の合計値} / \text{測定を実施した農薬数}) \times 100$	—	—	—

光市水道事業算出数値（平成16年度～平成18年度）

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1110	重金属濃度水質基準比	%	(6項目の重金属毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計/6) × 100	0	0	0
1111	無機物質濃度水質基準比	%	(6項目の無機物質毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計/6) × 100	15	9	16
1112	有機物質濃度水質基準比	%	(4項目の有機物質毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計/4) × 100	0	0	0
1113	有機塩素化学物質水質基準比	%	(9項目の有機塩素化学物質毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値等で除した値の合計/9) × 100	0	0	0
1114	消毒副生成物濃度水質基準比	%	(5項目の消毒副生成物毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計/5) × 100	0	0	0
1115	直結給水率	%	(直結給水件数/給水件数) × 100	94.6	94.5	94.6
1116	活性炭投入率	%	(年間活性炭投入日数/年間日数) × 100	0.0	0.0	0.0
1117	鉛製給水管率	%	(鉛製給水管使用件数/給水件数) × 100	26.5	26.3	26.2

◆『安定』に関する指標

2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	〔(配水池総容量 × 1/2 + 緊急貯水槽容量) / 給水人口〕 × 1000	209	210	210
2002	給水人口一人当たり配水量	L/日/人	(一日平均配水量 / 給水人口) × 1000	694	671	673
2003	浄水場予備力確保率	%	〔(全浄水施設能力 - 一日最大浄水量) / 全浄水施設能力〕 × 100	16.9	18.8	25.3
2004	配水池貯留能力	日	配水池総容量 / 一日平均配水量	0.60	0.63	0.62
2005	給水制限日数	日	年間給水制限日数	0	0	0
2006	普及率	%	(給水人口 / 給水区域内人口) × 100	98.1	98.1	96.0

光市水道事業のあゆみ

市民アンケートの実施

光市水道事業の目指すべき方向性

ビジョンの全体像

施設維持計画

災害対策及び維持管理計画

環境対策及び水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料編

水道事業ガイドライン業務指標137項目

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
2007	配水管延長密度	km/km ²	配水管延長 / 給水区域面積	7.4	7.4	7.4
2008	水道メータ密度	個/km	水道メータ密度 / 配水管延長	92	92	94
2101	経年化浄水施設率	%	(法定耐用年数を超えた浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	0.0	0.0	0.0
2102	経年化設備率	%	(経年化年数を超えている電気・機械設備 / 電気・機械設備の総数) × 100	16.7	16.7	37.5
2103	経年化管路率	%	(法定耐用年数を超えた管路延長 / 管路総延長) × 100	41.3	41.1	40.1
2104	管路の更新率	%	(更新した管路延長 / 管路総延長) × 100	0.99	0.64	0.56
2105	管路の更生率	%	(更生された管路延長 / 管路総延長) × 100	0.000	0.000	0.000
2106	バルブの更新率	%	(更新されたバルブ数 / バルブ設置数) × 100	0.75	0.35	0.31
2107	管路の新設率	%	(新設管路延長 / 管路総延長) × 100	0.71	0.43	0.22
2201	水源の水質事故数	件	年間水源水質事故件数	1	0	0
2202	幹線管路の事故割合	件/100km	(幹線管路の事故件数 / 幹線管路延長) × 100	33.8	6.6	26.8
2203	事故時配水量率	%	(事故時配水量 / 一日平均配水量) × 100	0.0	0.0	0.0
2204	事故時給水人口率	%	(事故時給水人口 / 給水人口) × 100	100.0	100.0	100.0
2205	給水拠点密度	箇所/ 100km ²	(配水池・緊急貯水槽数 / 給水区域面積) × 100	17.8	17.8	17.8
2206	系統間の原水融通性	%	(原水融通能力 / 受水側浄水能力) × 100	0.0	0.0	0.0

光市水道事業算出数値（平成16年度～平成18年度）

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
2207	浄水施設耐震率	%	(耐震対策の施されている浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	0.0	0.0	0.0
2208	ポンプ所耐震施設率	%	(耐震対策の施されているポンプ所能力 / 全ポンプ所能力) × 100	40.4	40.4	40.4
2209	配水池耐震施設率	%	(耐震対策の施されている配水池容量 / 配水池総容量) × 100	0.0	0.0	0.0
2210	管路の耐震化率	%	(耐震管延長 / 管路総延長) × 100	7.9	8.2	11.5
2211	薬品備蓄日数	日	平均薬品貯蔵量 / 一日平均使用量	25.7	25.7	39.6
2212	燃料備蓄日数	日	平均燃料貯蔵量 / 一日使用量	0.0	0.0	0.0
2213	給水車保有度	台/1000人	(給水車数 / 給水人口) × 1000	0.00	0.00	0.00
2214	可搬ポリタンク・ポリパック保有度	個/1000人	(可搬ポリタンク・ポリパック数 / 給水人口) × 1000	1.9	1.9	26.6
2215	車載用の給水タンク保有度	m ³ /1000人	(車載用給水タンクの総容量 / 給水人口) × 1000	0.24	0.24	0.24
2216	自家用発電設備容量率	%	(自家用発電設備容量 / 当該設備の電力総容量) × 100	0.0	0.0	0.0
2217	警報付施設率	%	(警報付施設数 / 全施設数) × 100	83.3	83.3	83.3
2218	給水装置の凍結発生率	件/1000件	(給水装置の年間凍結件数 / 給水件数) × 1000	1.27	1.64	0.00

◆『持続』に関する指標

3001	営業収支比率	%	(営業収益 / 営業費用) × 100	122.1	123.9	117.0
3002	経常収支比率	%	[(営業収益 + 営業外収益) / (営業費用 + 営業外費用)] × 100	101.5	101.4	96.5

光市水道事業
のあゆみ

市民アンケート
の実施

光市水道事業の
目指すべき方向性

ビジョンの全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画

環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料
編

水道事業ガイドライン業務指標137項目

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
3003	総収支比率	%	$(\text{総収益} / \text{総費用}) \times 100$	101.5	101.4	96.5
3004	累積欠損金比率	%	$[\text{累積欠損金} / (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})] \times 100$	0.0	0.0	0.0
3005	繰入金比率 (収益的収入分)	%	$(\text{損益勘定繰入金} / \text{収益的収入}) \times 100$	2.7	3.0	4.0
3006	繰入金比率 (資本的収入分)	%	$(\text{資本勘定繰入金} / \text{資本的収入}) \times 100$	0.0	3.3	3.6
3007	職員一人当たり給水収益	千円/人	$(\text{給水収益} / \text{損益勘定所属職員数}) \times 1000$	21,806	21,693	23,775
3008	給水収益に対する職員給与費の割合	%	$(\text{職員給与費} / \text{給水収益}) \times 100$	52.2	48.3	43.0
3009	給水収益に対する企業債利息の割合	%	$(\text{企業債利息} / \text{給水収益}) \times 100$	15.2	15.4	15.5
3010	給水収益に対する減価償却費の割合	%	$(\text{減価償却費} / \text{給水収益}) \times 100$	15.4	16.5	25.8
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	%	$(\text{企業債償還金} / \text{給水収益}) \times 100$	20.6	23.2	25.8
3012	給水収益に対する企業債残高の割合	%	$(\text{企業債残高} / \text{給水収益}) \times 100$	467.0	545.9	611.0
3013	料金回収率 (給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合)	%	$(\text{供給単価} / \text{給水原価}) \times 100$	96.6	96.6	90.3
3014	供給単価	円/m ³	給水収益 / 有収水量	78.9	79.1	79.1
3015	給水原価	円/m ³	$[\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費})] / \text{有収水量}$	81.7	81.8	87.6
3016	1箇月当たり家庭用料金(10m ³)	円	1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金 + 10m ³ 使用時の従量料金	650	650	650
3017	1箇月当たり家庭用料金(20m ³)	円	1箇月当たりの一般家庭用(口径13mm)の基本料金 + 20m ³ 使用時の従量料金	1,440	1,440	1,440

光市水道事業算出数値（平成16年度～平成18年度）

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
3018	有収率	%	$(\text{有収水量} / \text{給水量}) \times 100$	89.1	89.2	89.4
3019	施設利用率	%	$(\text{一日平均給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100$	66.1	63.7	63.9
3020	施設最大稼働率	%	$(\text{一日最大給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100$	83.1	81.2	74.7
3021	負荷率	%	$(\text{一日平均給水量} / \text{一日最大級水量}) \times 100$	79.5	78.5	85.6
3022	流動比率	%	$(\text{流動資産} / \text{流動負債}) \times 100$	135.1	118.1	123.3
3023	自己資本構成比率	%	$[(\text{自己資本金} + \text{剰余金}) / \text{負債} \cdot \text{資本合計}] \times 100$	33.8	31.1	28.4
3024	固定比率	%	$[\text{固定資産} / (\text{自己資本金} + \text{剰余金})] \times 100$	264.3	282.6	306.6
3025	企業債償還元金対減価償却費比率	%	$(\text{企業債償還元金} / \text{当年度減価償却費}) \times 100$	134.8	141.0	99.8
3026	固定資産回転率	回	$(\text{営業収益} - \text{受託工事収益}) / [(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) / 2]$	0.15	0.14	0.13
3027	固定資産使用効率	m ³ /10000円	$(\text{給水量} / \text{有形固定資産}) \times 10000$	20.2	17.7	16.3
3101	職員資格取得度	件/人	職員が取得している法定資格数 / 全職員数	0.37	0.33	0.65
3102	民間資格取得度	件/人	職員が取得している民間資格取得数 / 全職員数	0.02	0.03	0.03
3103	外部研修時間	時間	$(\text{職員が外部研修を受けた時間} \cdot \text{人数}) / \text{全職員数}$	0.7	1.1	4.1
3104	内部研修時間	時間	$(\text{職員が内部研修を受けた時間} \cdot \text{人数}) / \text{全職員数}$	3.0	5.0	7.0
3105	技術職員率	%	$(\text{技術職員総数} / \text{全職員数}) \times 100$	61.0	52.5	54.1

光市水道事業の
のあゆみ

市民アンケート
の実施

光市水道事業の
目指すべき方向性

ビジョンの
全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画

環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体の
まとめ

資料
編

水道事業ガイドライン業務指標137項目

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
3106	水道業務経験年数度	年/人	職員の水道業務経験年数 / 全職員数	24.5	21.3	23.8
3107	技術開発職員率	%	(技術開発業務従事職員数 / 全職員数) × 100	0.00	0.00	0.00
3108	技術開発費率	%	(技術開発費 / 給水収益) × 100	0.00	0.00	0.00
3109	職員一人当たり配水量	m ³ /人	年間配水量 / 全職員数	279,900	276,900	300,000
3110	職員一人当たりメータ数	個/人	水道メータ数 / 全職員数	467	479	531
3111	公傷率	%	[(公傷で休務した延べ人・日数) / (全職員数 × 年間公務日数)] × 100	0.000	0.000	0.000
3112	直接飲用率	%	(直接飲用回答数 / 直接飲用アンケート回答数) × 100	0.0	0.0	0.0
3201	水道事業にかかる情報の提供度	部/件	広報誌配布部数 / 給水件数	0.0	0.0	0.0
3202	モニタ割合	人/1000人	(モニタ人数 / 給水人口) × 1000	0.00	0.00	0.00
3203	アンケート情報収集割合	人/1000人	(アンケート回答人数 / 給水人口) × 1000	0.00	0.00	0.00
3204	水道施設見学者割合	人/1000人	(見学者数 / 給水人口) × 1000	4.4	8.1	7.5
3205	水道サービスに対する苦情割合	件/1000件	(水道サービス苦情件数 / 給水件数) × 1000	データなし	データなし	データなし
3206	水質に対する苦情割合	件/1000件	(水質苦情件数 / 給水件数) × 1000	データなし	データなし	データなし
3207	水道料金に対する苦情割合	件/1000件	(水道料金苦情件数 / 給水件数) × 1000	データなし	データなし	データなし
3208	監査請求数	件	年間監査請求件数	0	0	0

光市水道事業算出数値（平成16年度～平成18年度）

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
3209	情報開示請求数	件	年間情報開示請求件数	0	0	0
3210	職員一人当たり受付件数	件/人	受付件数 / 全職員数	データなし	データなし	データなし

◆『環境』に関する指標

4001	配水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	全施設の電力使用量 / 年間配水量	0.34	0.30	0.33
4002	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー	MJ/m ³	全施設での総エネルギー消費量 / 年間配水量	1.26	1.12	1.22
4003	再生可能エネルギー利用率	%	(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100	0.00	0.00	0.00
4004	浄水発生土の有効利用率	%	(有効利用土量 / 浄水場生土量) × 100	0.0	0.0	0.0
4005	建設副産物のリサイクル率	%	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物排出量) × 100	0.0	72.6	100.0
4006	1m ³ 当たり二酸化炭素(CO ₂)排出量	g・CO ₂ /m ³	(総二酸化炭素排出量 / 年間配水量) × 10 ⁶	201.9	195.6	199.1
4101	地下水率	%	(地下水揚水量 / 水源利用水量) × 100	100.0	100.0	100.0

◆『管理』に関する指標

5001	給水圧不適正率	%	[適正な範囲になかった圧力測定箇所・日数 / (圧力測定箇所総数 × 年間日数)] × 100	データなし	0.18	0.00
5002	配水池清掃実施率	%	[最近5年間に清掃した配水池容量 / (配水池総容量 × 5)] × 100	0	0	0
5003	年間ポンプ平均稼働率	%	[ポンプ運転時間の合計 / (ポンプ総台数 × 年間日数 × 24)] × 100	29.1	27.6	32.3
5004	検針誤り割合	%	(誤検針件数 × 検針総件数) × 1000	0.04	0.00	0.02

光市水道事業
のあゆみ

市民アンケート
の実施

光市水道事業の
目指すべき方向性

ビジョンの全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画

環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料編

水道事業ガイドライン業務指標137項目

指標NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
5005	料金請求誤り割合	%	$(\text{誤料金請求件数} \times \text{料金請求総件数}) \times 1000$	0.13	0.02	0.02
5006	料金未納率	%	$(\text{年度末未納料金総額} \times \text{総料金収入額}) \times 100$	12.7	13.1	13.1
5007	給水停止割合	件/1000件	$(\text{給水停止件数} \times \text{給水件数}) \times 1000$	0.0	10.7	28.1
5008	検針委託率	%	$(\text{委託した水道メータ数} \times \text{水道メータ数}) \times 100$	79.8	95.7	100.0
5009	浄水場第三者委託率	%	$(\text{第三者委託した浄水場能力} \times \text{全浄水場能力}) \times 100$	0.0	0.0	0.0
5101	浄水場事故割合	10年間の件数/箇所	10年間の浄水場停止事故件数 × 浄水場総数	2.0	2.0	2.0
5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	$[(\text{ダクタイル鋳鉄管延長} + \text{鋼管延長}) / \text{管路総延長}] \times 100$	37.0	36.2	37.0
5103	管路の事故割合	件/100 km	$(\text{管路の事故件数} / \text{管路総延長}) \times 100$	10.1	17.8	17.7
5104	鉄製管路の事故割合	件/100 km	$(\text{鉄製管路の事故件数} / \text{鉄製管路総延長}) \times 100$	0.0	7.2	10.0
5105	非鉄製管路の事故割合	件/100 km	$(\text{非鉄製管路の事故件数} / \text{非鉄製管路総延長}) \times 100$	28.0	36.6	31.2
5106	給水管の事故割合	件/1000件	$(\text{給水管の事故件数} / \text{給水件数}) \times 1000$	16.8	10.8	8.1
5107	漏水率	%	$(\text{年間漏水量} / \text{年間配水量}) \times 100$	10.2	10.1	9.9
5108	給水件数当たり漏水量	m ³ /年/件	年間漏水量 / 給水件数	64.2	60.8	59.3
5109	断水・濁水時間	時間	$(\text{断水・濁水時間} \times \text{断水・濁水区域給水人口}) / \text{給水人口}$	データなし	データなし	データなし
5110	設備点検実施率	%	$(\text{電気・計装・機械設備等の点検回数} / \text{電気・計装・機械設備の法定点検回数}) \times 100$	100	100	100

光市水道事業算出数値（平成16年度～平成18年度）

指標 NO	業務指標の名称	単位	定義	平成16年度	平成17年度	平成18年度
5111	管路点検率	%	$(\text{点検した管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	5	2	0
5112	バルブ設置密度	基/km	バルブ設置数 / 管路総延長	19.6	19.6	18.9
5113	消火栓点検率	%	$(\text{点検した消火栓数} / \text{消火栓数}) \times 100$	100	100	100
5114	消火栓設置密度	基/km	消火栓数 / 配水管延長	3.2	3.3	2.7
5115	貯水槽水道指導率	%	$(\text{貯水槽水道指導件数} / \text{貯水槽水道総数}) \times 100$	0.0	5.1	0.0

◆『国際』に関する指標

6001	国際技術等協力度	人・週	人的技術等協力者数 × 滞在週数	0	0	0
6101	国際交流数	件	年間人的交流件数	0	0	0

光市水道事業
のあゆみ

市民アンケート
の実施

光市水道事業の
目指すべき方向性

ビジョンの全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画

環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

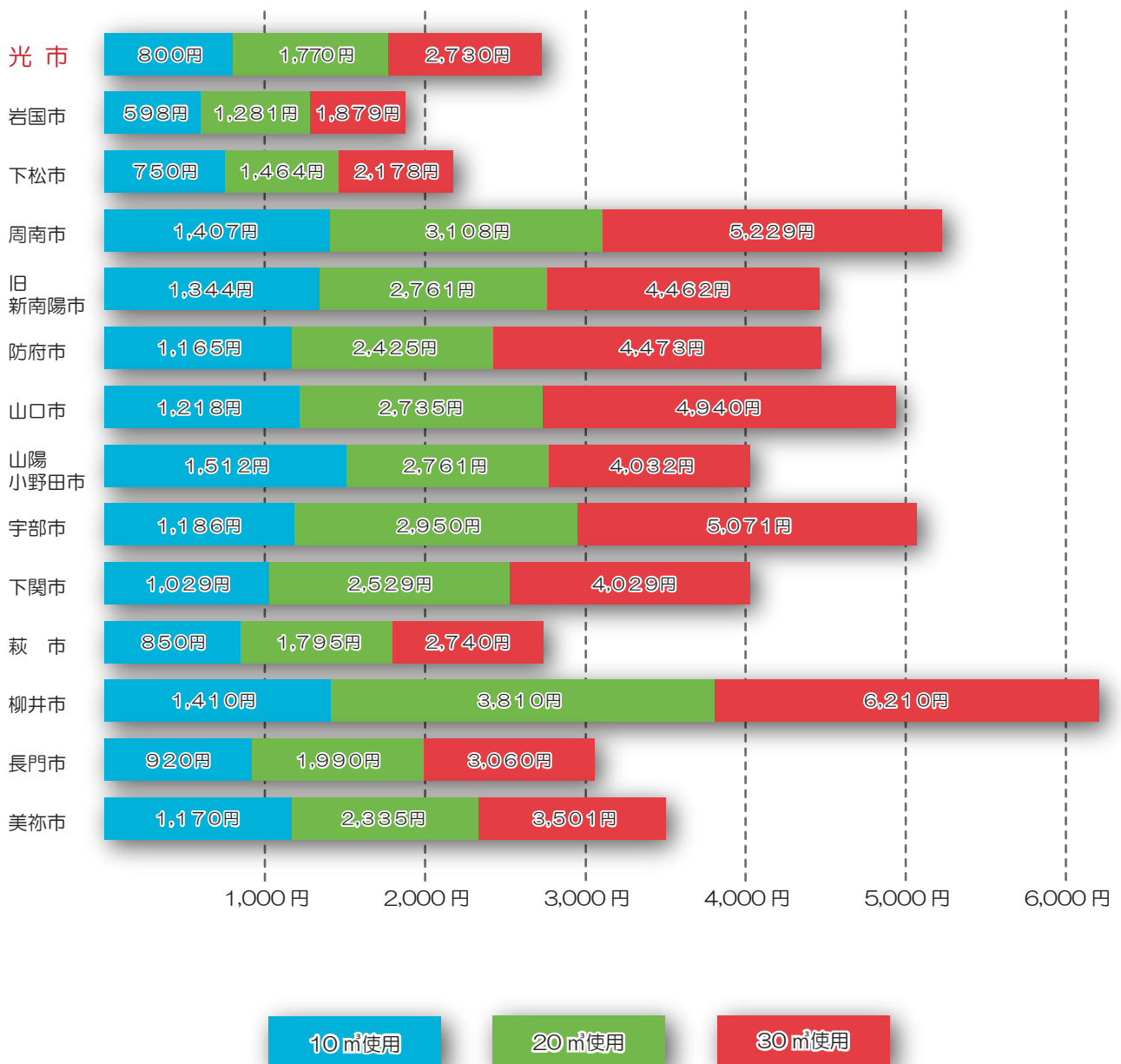
財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料
編

③ 山口県内の水道料金の比較

◆水道メーター口径 13 mmの家事用水の場合





光市水道事業
のあゆみ

市民アンケート
の実施

光市水道事業の
目指すべき方向性

ビジョンの全体像

施設維持計画

災害対策及び
維持管理計画

環境対策及び
水質保全計画

サービス向上計画

経営基盤強化計画

財政適正化計画

施策全体のまとめ

資料
編